

デイリージーザスニュース #031

イエスの初期のユダヤ教宣教

弟子作りの輝かしい最初の週の1日目:
洗礼者ヨハネは自分が救世主ではないと告白する
ヨハネ1.19-28

19 エルサレムのユダヤ人指導者たちが祭司たちとレビ人たちを遣わして、ヨハネが誰なのか尋ねさせたとき、ヨハネはこのように証言した。 20 彼は真実を告白し、否定せず、率直にこう告白した。「私自身はメシアではありません。」

21 彼らはイエスに尋ねた。「それでは、あなたはどなたですか。あなたはエリヤですか。」イエスは答えた。「違います。」「あなたは預言者ですか。」イエスは答えた。「いいえ。」22 最後に彼らは言った。「それでは、あなたはどなたですか。私たちを遣わした人たちに伝えるために、教えてください。あなた自身について、あなたは何と言っていますか。」

23 ヨハネは答えた。「わたしは荒野で叫ぶ声です。『主の道をまっすぐにせよ』と預言者イザヤが言ったとおりです。」

24 さて、遣わされた人々の中にはパリサイ派の者もいた。 25 彼らはイエスに尋ねた。「あなたは、メシアでも、エリヤでも、預言者でもないのなら、なぜバプテスマを施すのですか。」

26 ヨハネは答えた。「私は水に浸かっていますが、あなたがたの中には、あなたがたの知らない方が立っています。 27 その方は、私のあとに来られる方です。私はその方の履物のひもを解く値打ちもありません。」

28 このすべてでは、ヨルダン川の向こう岸のベタニアで起こったことであり、ヨハネはそこで洗礼を施していた。

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ジョン = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**赤い斜体はイエスの言葉を示します。**

コンテキストダイジェスト

位置	ヨルダン川の東側にあるベタニア
----	-----------------

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

時間	西暦30年3月初旬（第3月）
の生涯の段階	ステージ 3: ユダヤ教初期の宣教
SAGA 第6章	の宣教の始まり
セクション #031	1日目: ヨハネは自分が救世主ではないと告白する

」の救世主としての働きの初期ユダヤ教宣教」段階（第3段階）における5番目の朗読です。この段階の特徴を簡単に紹介しましょう。

紀元30年1月中旬から7月まで、イエスはユダヤ地方に集中して宣教活動を開始しました。この6か月間、イエスは個人への伝道と弟子としての訓練に重点を置きました。バプテスマのヨハネは、イエスを求める人々をバプテスマにかけ、イエスのもとに送り続けました。イエスは、これらの多くを信仰と弟子としての訓練に導きました。イエスはまた、この数か月間、自ら進んで個人的な証言活動を行いました。ユダヤ地方を優先しましたが、この数か月間にイエスはガリラヤまで旅をしました。また、宣教活動の最初の過越祭（4月）には、神殿で公に説教し、癒しを行いました。これらは、ユダヤでの個人伝道と弟子としての訓練にイエスが重点を置いた例外的な出来事でした。

新約聖書学者の中には、この時期をイエスの生涯における「無名の年」と呼ぶ人もいます。なぜなら、この時期についてはあまりに知られていないからです。この時期に関する福音書の資料は、主の宣教活動の他のどの部分よりも少ないです。共観福音書は、すでに見たように、イエスの浸礼と40日間の断食と祈りについて説明しています。それ以外は、この約6か月の期間について私たちが知っていることはすべて、ヨハネ1:19-4:45に書かれています。内容は限られていますが、非常に重要なものです。ヨハネは、イエスとこの時期のイエスの働きについて多くのことを伝えようと、物語を注意深く構成しました。ヨハネ3:16がなければ、聖書は何を失っていたでしょう。

ヨハネはヨハネ1章1-5節の序文の背景として創世記1-2章を念頭に置いていたことを私たちには指摘しました（DJN #002）。モーセは物語の始まり、つまり創造の最初の週を数日間に分けて書き始めました。ヨハネは明らかにこのアプローチに並行して、イエスの弟子作りの働きの最初の週を数日間に分けて福音書を始めました。それはイエスが神の新しい民を創造し始めた始まりであり、その交わりは私たちの創造主であり贖いの子羊であるイエスの似姿に一致していました。

私たちは、弟子を作る最初の創造的な週の各日を、DAILY JESUS NEWS で確認していきます。ヨハネは、この進行を示すために「次の日、2日目、3日目」などの用語を使用しました。この週の間に、最初の5人の弟子はイエスを信じ、「イエスの栄光を見」始め、将来のイエスの信者全員の原型となります。

1日目、今日の朗読で、ヨハネは、イエスが救世主であるのだから、自分は救世主ではないと明白に述べました。彼の答えがますます簡潔になっていることに注目してください。「私は救世主ではありません…私は違います…いいえ！」彼の忍耐は試されていました。なぜなら、洗礼者は自分の役割を「叫ぶ声…」、つまりイエスが神の子であり救世主であることを示す証人であると考えていたからです。彼は、自分の証人を通してすべての人人がイエスを信じることを望んでいました。彼は、誰かが自分の使命を誤解して、誤って自分を救世主として信じることを決して望んでいませんでした。そのため、彼が救世主ではないという明白な真実を非常に明確に述べたにもかかわらず、ユダヤ人の指導者たちがそれを受け入れなかつたとき、彼は非常に動搖しました。

これは重要なことです。なぜなら、イエスの最初の信者は皆、ヨハネの最初の弟子だったからです。実際、この6ヶ月の宣教期間中にイエスに従い始めた信者の大多数は、ヨハネの宣教を通してイエスを信じるようになりました

イエスは、これを可能にするために、ヨハネが説教し、浸礼を施していた場所の近くにとどまりました。浸礼者とイエスの関係を理解することは、この時期のイエスの宣教を理解するために不可欠です。

第四福音書の著者ヨハネは、洗礼者が救世主ではないという真実を、救世主であることを断固として否定する表現として「告白する」という動詞を二度使用してさらに強調しました。

「告白する」とは、他の人が同意して言ったのと同じことを繰り返すことを意味します。たとえば、福音書はイエスが救世主であり、罪からの救い主であると宣言しています。私たちがイエスを救世主として信じることを「告白する」とき、私たちは聖書とイエス自身がイエスの正体について言ったのと同じことを口で宣言することになります。「告白」とは、私たちが何か新しいことをでっち上げるのではなく、むしろ他の人がすでに言ったことに完全に同意することを宣言することを意味します。つまり、私たちは同意するのです。

洗礼者ヨハネは、口先で自分が救世主であることを否定しただけでなく、預言者イザヤ、マラキ、父ゼカリヤの預言、父の声、聖霊、そしてイエスに「告白して、真理を否定しなかつた」と同意しました。ヨハネの「告白」という発言は、彼自身の言葉だけよりもずっと強力でした。彼の告白は、イエスが誰であるか、そして洗礼者ヨハネが誰ではないかを非常に力強く断言しました。

応用

告白は信仰の重要な原則です。私たちはイエスとの関係において何か新しいことを発明する必要はありません。私たちが信じる必要のあることはすべて、聖書の中で、そして究極的には神であり人であるイエス自身の生涯と教えの中すでに明らかにされています。

イエスに従うということは、イエスがすでに明らかにした真実を「告白する」ことです。私たちは、自分の罪、自分の救い、日々の必要、この世での目的、そしてイエスと共にある永遠の将来など、神と私たちが同意する重要な領域について、「イエスが言ったのと同じことを言うことによってイエスに同意する」のです。

私たちが福音書の中で毎日イエスを見つめる理由は、イエスがどのような方であるか、またイエスが私たちのために何をしてくださったかというあらゆる側面を「告白」するためです。それによって私たちは、自分の人生のすべてについてイエスに「同意」するのです。

聖書とイエス自身に見るすべての真理を、イエスを信じるあなた自身の「信仰告白」に変えてください。すべてを自分の口で告白することを学び、それがイエスにおいて真実であり、したがってあなたにとっても真実であると大胆に宣言してください。

今日はどんな真実を告白しますか？